

令和2年1月23日 市長定例記者会見 会見録

【司会】

それでは、ただいまから市長定例記者会見を開催いたします。本日の話題は1件でございます。市長、よろしくお願いいいたします。

【市長】

本日朝8時から自民党本部で港湾議連総会が行われていたんですけども、望月義夫先生が亡くなったということで、私がお礼かたがた出席をしてきまして、今、この記者会見に間に合うような形で戻ってまいりました。改めて国会議員の先生方から、望月先生の全国の港の港湾振興に対するご功績ということをとくさんの方から、私自身がお礼や報告やらいただいて、この後、ご意思を継いでいかなきゃいけないという気持ちにさせていただき、今、戻ってきました。

そして、昨週、私はアメリカのポートセールスに行ってきました。期間は12日の日曜日から17日の金曜日までであります。目的はアメリカに本社を置く船会社に対して、直接、出向き説明することで、富士山を初めとして清水港の魅力を感じ取っていただき、清水港へのクルーズ客船の寄港を誘致するためであります。県市連携、官民連携で行ってまいりました。訪問した船社からは官民連携で、しかも市長がトップセールスをしたことに対して、とてもいい印象を持っていただいたというコメントももらっています。清水港に対する船社側の印象はきれいである、安全である、歓迎のおもてなしが満足などの乗船客の感想や今回の富士山を中心としたプレゼンと合わせ、日本の港の中で上位にランキングしているという評価を得ました。

特に今回のプレゼンで反響があったのは、清水港日の出埠頭に計画を進めている仮称海洋地球総合ミュージアムであり、他に類を見ない新たな視点の海洋拠点施設に大きな興味を示し、開館に合わせて寄港したいという声も上がっていました。このように直接船社にセールスができるように関係を築いたのは、30年前に誘致委員会を立ち上げたアオキトランスの望月会長であり、望月代議士であり、清水港ならではの優位性であります。船社による寄港地の予約は3年先となるため、誘致活動の成果は5年後、10年後に反映されてくることになります。今回も世界に向けて清水港の強力なポートセールスができたと感じていますということをご報告いたします。

少し私の言葉で補足をいたしますと、今年70杯の船が予定されているんですけども、たいへん、今、申し上げたとおりの手応えを感じました。3年先は三桁に乗せる、100杯以上のクルーズ船を清水港に寄港していただくということが視野に入ってきました。ぜひ、それを実現して、世界から多くのお客さんが来る清水港を目指していきたいというふうに思います。

さて、それでは本日の話題に移ります。「区民の皆さんの笑顔のために！駿河スマイル・プロジェクト、静岡市公式LINEスタンプ“トロベア”を発売します」という項目であります。本日の話題は明日、1月24日、トロベアの駿河区応援隊長就任の3周年の記念日で、静岡市公式のLINEスタンプ、トロベアのLINEスタンプの販売を開始するというものであります。

さっそく、主役はトロベアーでありますのでスタンバイをしています。駿河区の若手職員が介添えをしておりますので、入場してもらいたいと思います。トロベアー、職員の皆さま方だけでも、身内の方、拍手をお願いしたいなと思います。昨年1月の会見でトロベアーの駿河区応援隊長就任2周年と、それを記念した駿河区の19学区地区のトロベアーデザインについて発表しました。19の学区別のトロベアーのデザインは駿河区の各自治会が発行する広報物に使ったり、19のデザインがプリントされた駿河区役所の公用車が区内を走り回ったりするなど、まさに駿河区民の皆さんと駿河区役所の職員が愛し、育てているキャラクターです。

このトロベアーは、元々は登呂遺跡のマスコットキャラクターということなのですが、なぜ葵区のおおいくんとか、清水区のシズラと並んで駿河区を代表するキャラクターとして活躍しているのでしょうか。ここには駿河区役所にいらっしゃった皆さんに笑顔で帰っていただくことをモットーに、駿河区役所の若手職員が立ち上げた組織、静岡(注:駿河)スマイルプロジェクト、通称SSPの活動があります。そして、今回、駿河区民の皆さんとSSPの職員とのさらなる協働により、トロベアーのLINEスタンプが誕生をしたわけであります。このあたり、当事者の皆さんから説明をさせたいと思いますので、駿河区の職員3人、ぜひ入場をしていただきたい。そこにいらっしゃっているね、よろしく願いをいたします。それではマイクをいったん譲ります。

【駿河区役所戸籍住民課】

こんにちは。駿河スマイルプロジェクト環境整備グループの戸籍住民課です。

【駿河福祉事務所生活支援課】

人材育成グループ生活支援課です。

【駿河区役所地域総務課】

事務局の地域総務課です。私たち駿河スマイルプロジェクト、SSPは平成26年に、これまでの窓口サービスをさらに向上させるために若手職員が立ち上げたもので、現在は市民対応力の向上や情報発信力の強化を目的に環境整備グループ、人材育成グループ、ハッスル・キャラ・グループの三つのグループに分かれて、それぞれ自発的に活動しています。活動の詳細については添付の資料をご覧ください。その中でもハッスル・キャラ・グループは駿河区を応援したいと言ってくれたトロベアーに対して、駿河区の応援隊長を任せるというストーリーの下、平成28年にトロベアーを駿河区応援隊長に任命しまして、そこから駿河区の魅力等を発信する活動を行っています。具体的にはトロベアーのイベント出演であったり、駿河区内のこども園でのダンス教室を実施しています。また、昨年度は駿河区役所の前にトロベアーのマンホール蓋を設置しました。

【駿河福祉事務所生活支援課】

LINEスタンプの作成については、活動当初からイベント出演等で触れ合った多くの方にご要望いただいたこと、また、平成29年度の区長とまちみがきセッションにおいても、区役所の情報発信力

強化という点で区民から提案があったことがきっかけとなり、昨年度からグループ内で検討を重ねてきました。実施にあたっては、区民の皆さまと共に楽しみながらスタンプを作成するために、トロベールLINE スタンプ総選挙と題し、区民参加型の選考を行いました。

【駿河区役所戸籍住民課】

投票総数 7,830 票をいただいた上で決定したデザインが、今、トロベールが持っているパネルの 40 種類です。ではトロベールお願いします。

19 のトロベールデザインや静岡弁を用いた使い勝手の良いスタンプとなっています。この 40 種類のスタンプをワンセット 50 コイン 120 円で、明日、1月 24 日、金曜日、朝9時から LINE アプリ上のスタンプショップで発売します。ぜひ日常のコミュニケーションに、この LINE スタンプを使用し、よりトロベールに愛着を持っていただければ幸いです。

【市長】

どうもありがとうございました。ぶっつけ本番の割にはうまくいきました。本来ならば私と事前の打ち合わせがあるんですけども、私が今日はそういった事情で、この会場に飛び込んできましたので、全くぶっつけ本番ですけども、よくやってくれました。どうもありがとうございました。

私が記者の皆さんにお願いをしたいのは、公務員の不祥事があるとすぐに報道される。この前も、どこかの市役所の職員が駅のホームをジャンプして、そして転落をしたと。ばかな職員がいるもんだと。公務員だからこそあんなふうにならないうし、そういう不祥事があるとどうしても公務員ってのは出てしまう。やむを得ないんですけども。そうではなくて、こういうSSPのような若手職員が区民のことを考え、区民と協働して LINE のスタンプを作るって、本当におもてなし、一生懸命やってくれている。そういったことをぜひ記者の皆さんに知っていただき、また光を当てて、彼らがモチベーションをもらうように、マスメディアに登場するっていうのは非常にやる気につながります。光を当ててくれるっていうことは大変ありがたいことです。

ですので、こういう場所でこのようにプレゼンテーションをしてもらう機会を作ったわけでありますので、ぜひ、よろしくお願いをいたします。どうもありがとう。トロベールありがとう。

【司会】

それではトロベールにもご退出をいただきまして、ありがとうございました。

ただいまの発表項目につきまして、ご質問がある方はお願いしたいと思いますが、その際は社名、お名前をおっしゃってからお願いしたいと思います。毎日新聞さん。

【毎日新聞】

すいません。トロベールに退出してもらったところ恐縮なんですけれども。市長とトロベールと並んでいるところを写真に撮りたかったんですけど、大丈夫ですか。

【市長】

ごめんなさい。トロベーターが主役だもんだから、私、脇に控えていたんですけど、ありがとうございます。そうしたら駿河区の職員、もう1回来て。

～写真撮影～

【司会】

引き続きいかがでしょうか。ありがとうございました。それでは幹事社質問に移りたいと思います。幹事社さん、よろしくお願いします。

【朝日新聞】

幹事社の朝日新聞です。よろしくお願いします。

清水庁舎の移転について2点お伺いします。本日、静岡住民投票の会が清水庁舎の移転計画の賛否を問う住民投票の実現に向け、署名活動を開始しました。市の受け止めと、今後の対応方針があれば聞かせてください。

二つ目が庁舎事業で採用しているPFI方式での入札について、先日行われたものでは参加表明が1件もありませんでした。これに対する市の受け止めと、改めて入札に参加してもらうためには何が重要と考えるかを教えてください。

【市長】

ありがとうございます。2つ質問をいただきました。

まず一つ目の質問に対してですけれども、住民投票制度というのは、法令で定められた直接請求の一つの制度でありますので、それを尊重して推移を、今後も見守っていきたいというふうに思っています。

二つ目のことについては、1月9日直前まで10社から参加表明を前提としたさまざまな質問があり、当局と受け答えをしておりました。そういうことから、私自身は参加をしてくるものだと期待をしておったわけでありまして。

しかしながら、今回参加がなかったということでもありますので、これまで、この事業に関心を持ってくださったゼネコンや、設計や、維持管理、金融事業者の皆さんに詳細な、もう一度サウンディング調査を実施し、今後は課題を整理して庁舎整備が早期に進むよう枠組みを変え、入札の再公告に向けて準備をしていきたいと考えています。以上です。

【司会】

どうぞ。

【朝日新聞】

現時点で入札がなかったことに関して、どういう理由で参加する企業がなかったと認識しておられますか。

【市長】

これを今、検討中であります。何かアセットから補足することがあったらお願いします。

【公共資産統括監】

公共資産統括監です。今、質問がありましたとおり、内容につきましては具体的には明日からサウンディング調査に入りますので、その中でどこが重要か、ポイントかっていうのは明らかになってくると思います。その中でいろいろ課題を整理していきたいというふうに考えております。以上です。

【朝日新聞】

すいません。確認なんですけれども、住民投票の動きを受けて関連議案の提出を見送るだとか、入札の手続きを遅らせるとか、そういうようなことは考えておられないでしょうか。

【市長】

まず1点目につきましては、ご存じのとおり、昨年9月の議会で議決をいただいておりますので、その議決を前提に私たちは丁寧な説明をしながらも前に進めていく責任が生じているというふうに考えておりますので、そういうことはありません。

二つ目の質問については、これも先ほど答えたとおりなんですけども、官民連携をしていく中で「ウイン－ウイン」の関係にならなければいけませんので、われわれの条件が厳しすぎて民間事業者が参入できないでは困るし、そこらへんのところ、民間事業者にとっても利益のある、そして、私たちにとっても公共性を担保するというぎりぎりのところ、柔軟アップするというのが、これからの先ほど統括監がおっしゃったサウンディング調査の目的となりますので、それを速やかに実施して再公告していきたいと思っています。

【司会】

ありがとうございました。それでは各社さんからのご質問をお受けしたいと思いますので、よろしくお願いします。NHKさん。

【NHK】

NHKです。駿府城跡の発掘調査について伺います。19日に報告会開かれましたけれども、その場で今後の保存活用についてもいろいろな議論、特に専門家の先生からは市民の意見を、専門家よりもむしろ市民が主体となって考えてこそ、愛される城跡になるというお話もあったんですけども、市長、今、これだけのものが出てきた中で今後の保存活用についてどのようにお考えでしょうか。

【市長】

さまざまな意見があります。報告会のアンケートも現課の方から上がってまいりましたので、すごく関心を持ってきているなということに手応えを感じております。私たちはこの遺構を活用していきたい。そして、駿府城公園にたくさんの方々が来てもらう、求心力の要素にしていきたいということが最初にありますので。どういうふうに見せていくのかということ、さまざまな意見をこれからも聞きながら決めていきたいというふうに思っています。

【NHK】

活用していきたいということですが、元をたどれば天守閣はともかく天守台の再建ということも視野に、まず現状を把握しようということで始まった経緯があったと思いますけれども、この後、商工会議所の会見がありますので、酒井会頭にもご意向は聞いていきたいと思うんですけれども、今となっては、あれの上に石垣を積み直して天守台を再建してほしいという意見は主流ではないと思いますが、市長も天守台再建というのは、当面はなかなかそこには踏み出せないかなというご認識で、それは同じでしょうか。

【市長】

これも含めて、これから市民の皆さんの意向を聞いた上で決めていきたいと思っています。アンケート調査の結果、遺構を見せていくという意見が大きくなっているということを感じておりますが、しかし、やっぱり天守台を造るべきだというような意見もあるということも把握をしました。

ですので、もう少し慎重にこのことについては検討していきたいと思っています。報告会の冒頭のあいさつで、私、申し上げたことを記者、聞いてくださっていたというふうに思いますので、新しいスタートなんですね、4年間の発掘調査の結果を市民の皆さんに報告をして、そして、市民の皆さん、この新しい局面でどう考えますかということを問いかける、そういう新しいスタートです。だから報告会は大事なんですよという趣旨のあいさつをさせていただきました。

ですので、私個人がどうってことではなくて、市民の皆さんの声に耳を傾けながら、これから決定をしていきたいというふうに思っています。

ただし、報告会の時に付言をしたわけですが、元々発掘調査は2015年、家康公の400年記念事業で非常に駿府城公園について関心が高まって、そして、市民の有志の方々から、21世紀に駿府城の天守をよみがえらせたいという思いの要望をいただいたことがきっかけです。だからこそ、発掘調査が始まったといういきさつがありますので、それも今のところでは尊重してかなければいけないというふうに思っています。

【NHK】

具体的には市民の意見は、パブコメというか、あるいはタウンミーティングとか何かプロセスがあるのでしょうか。

【市長】

報告会をしたというのが第1歩で新しいスタートであります、これからであります。ただ、今回関心のある方々という限定ですけれども、ずいぶん貴重な、すごく回収率も高かったんですよ。非常に意欲的な積極的なコメントを書いてくださった方が多いので手応えを感じています。関心の高さを感じています。

【NHK】

ごめんなさい。あと最後ですが、今後の大規模イベントですけれども。大道芸ワールドカップでいえばあその場所で元々プレミアムステージをやっていたと、それが今、市民文化会館大ホールになっていると。

今後、文化会館、改築にしろ改修にしろ、一定期間大ホールを使えない時期が出てくると予想されますけれども、そういったイベントの開催、この二つが同時並行でリニューアルが進むとすると、どういふふうにイベントとの兼ね合いを考えていらっしゃるのか。いかがでしょうか。

【市長】

前提として、今以上の制約はないというふうに考えています。

【NHK】

市民文化会館使えなくなる時期は、どういう方法にしろ、生じるとは思いますが。

【市長】

そういうことですね。市民文化会館の再整備計画がこれから決まっていきますので、それが公表してきた後、会館を利用しているイベント主催者の皆さんや市民の皆さんに不安を与えないように早めの情報提供など、対応していきたいというふうに考えています。

【NHK】

分かりました。ありがとうございます。

【司会】

ありがとうございました。他にいかがでしょうか、静岡朝日テレビさん。

【静岡朝日テレビ】

静岡朝日テレビなんですけれども、さっきのNHKさん、ちょっと質問に関連するんですが、駿府城で見つかった天守台の保存かつ見学施設を造るために9億円を予算計上するというような報道も出ているんですけれども、それに対しての、9億円っていう大規模な税金も投入されるということで、

その意義教えていただきたいのですが。

【市長】

その数字がどういういきさつで出たか分かりませんが、シミュレーションの一つの数字、仮説の数字にすぎません。さまざまな角度から費用対効果も考えてこれから。今、予算案、当初予算の詰めをしておりますけれども、詰めていきたいというふうに思っています。

【静岡朝日テレビ】

あともう一ついいですか。

これまでさまざまな遺跡が出てきていると思うんですけれども、市長としてこういったたくさん遺跡が出てくることの受け止めに教えてください。

【市長】

歴史のロマンですね。私は門外漢なので最初は分からなかったんですが、近世史を研究している若手の皆さんには垂ぜんの、第1級の資料が静岡から出てきたというふうな受け止めをしているようです。近世史、先人の皆さんの研究でかなり研究され尽くしたという中で、若手の研究者が新しいことをやるということは、どんどんハードルが上がってくる中で、全く未知なる研究分野がここで見つかったということは、すごく彼らに対してはモチベーションになっているというふうにも伺っておりますので、このところを大事にしていきたいというところもあります。

悩ましいですね。一方で天守台を早く造ってほしいという声もありますのでね。

【司会】

いかがでしょうか。じゃあ、第一テレビさん。

【静岡第一テレビ】

静岡第一テレビです。清水庁舎についてなんですが、署名活動が始まった、今、市民の皆さんの防災面への懸念というのにどのように応えていきたいと、市長、改めてお考えをお知らせください。

【市長】

今月、二十日ぐらい経ちましたけれども、私自身ができるべく清水に出向いて、丁寧に、丁寧に説明をしていくという努力を今年も続けていくつもりであります。また、広報しずおかで大きな紙面を割いて、このことについて説明もしております。

ただ紙面だと読んでいただける方が限定的になるので、私自身が直接説明をするということの努力をこれからもしていきたい、丁寧に説明をしていきたい。またそういうことだったのと。防災の面もあるけれども、経済活性化の面、高齢化の面、それを全部総合してこういうまちの配置になったんだよねと。市民の方々にとって暮らしやすいコンパクトなまち、そして、世界の方から来て欲しく、来たい

と思うようなまち、その両立をする中で、今回のコンバージョンがあるということを、きちっと丁寧に説明をしてきたいなというふうに思いますし、防災面の不安というものも解消するべく、丁寧に説明をしていきたいというふうに思っています。

本当に報道の皆さんも、その点、ぜひ多角的に総合的に報道していただければ大変うれしいなというふうに思います。私も努力しますけれども。

【司会】

テレ静さん、どうぞ。

【テレビ静岡】

すいません。テレビ静岡です。関連して清水庁舎のPFIについてなんですけれども、改めて再募集を行うという方針ということなんですけれども、また、次に入札表明が、仮の話で恐縮ですが、なかった場合、供用開始時期とか、大幅な計画の変更と見直してというのは想定として考えていらっしゃるのでしょうか。

【市長】

そうならないために、サウンディング調査をこれから丁寧にやってきたいと思っています。

【司会】

ありがとうございました。SBSさん。

【SBS】

すいません、SBSテレビです。すいません、行ったり来たりで。

駿府城の天守台の再建のことなんですけれども、これまで市長、ずっと再建を目指していきたいということはずっとおっしゃられていたと思いますが、一部報道で再建については棚上げかという報道もありましたけれども、棚上げという認識でよろしいのでしょうか。

【市長】

棚上げという言葉、間違いです。そういう予断を市民に与えるような報道は減に慎んでいただきたいと思います。先ほど申し上げたとおりですので、これから市民の皆さんの声を聞きながら総合的に判断をしていくということであります。

【SBS】

それこそ私個人の意見ではなく、市民の声を聞きたいということなんですけれども。改めて市長個人としては、再建については、今も変わらず目指していきたいというふうにお考えでしょうか。

【市長】

しかし、新しい要素が加わったということを加味しながら、もう一度市民の皆さんに呼び掛けたいという新しいスタートが、発掘調査の報告会だったという理解であります。私、さっきも悩ましいと申し上げましたけども、遺構を見せていくというのも有力な活用方法だろうと思っています。ご承知のとおり、家康時代、秀吉時代、そして、そこを造った経緯がどうであるか、また未知の部分がたくさんある。そういう魅力的な歴史の積み重ねの遺構が、全て今回そろったわけでありますので、そのことについて光を当てて見せていくというのも活用方法の一つだということも、今回報告したわけでありますので。

【司会】

ありがとうございました。

【司会】

皆さん、どう思います。また意見聞かせてください。

【司会】

じゃあもう一度、朝日テレビさん。

【静岡朝日テレビ】

ごめんなさい、今のことで確認なんですけども、活用方法として、そういう遺構が見える広場を整理するというのも一つの案だよっていう現状ですか。

【市長】

そうですね。報告会の時に歴史文化課のほうから、こういう活用方法もあるよという資料も、来場された皆さんにお渡しをしておりますので、これも新しい考え方だよということですね、それは並列であります。

【司会】

毎日新聞さん。

【毎日新聞】

毎日新聞です。すいません、ほんとは行ったり来たりになっちゃうんですけども、清水庁舎の件についてお伺いしたいんですけども、まず1点目が、先ほど田辺さんが丁寧に今後も説明していきたいとおっしゃっていましたが、具体的に説明会とかをして説明していきたいというふうに考えているっていうことなんですか。

【市長】

違います。そうではなくて、私が政務も含めてさまざまな機会に、講演会のチャンスもありますし、さまざまな会合へのお呼ばれもありますので、そういったときに、このことを話題にして時間が許せば丁寧に説明していきたいというふうに思っています。

【毎日新聞】

承知しました。政務の中であくまでも丁寧に説明していくってということですね。ありがとうございます。あともう1点。

【市長】

記者、前提として市民の代表たる市議会で、もう議決をもらっているということに対する責任というのが第一義的な私の行政の長としての責任でありますので、これ、前に進める。でも、まだ、怖いからあそこに造るべきではないというふうに考えている市民の皆さんがいらっしゃる方に対しては、こういう機会でも私のほうも努力していきたいということですね。

【毎日新聞】

ありがとうございます。あと関連してもう1点なんですけれども、先ほど田辺市長もおっしゃったようにまだ根強く心配だなと思っている区民とか、市民の方もいらっしゃるというのはご存じだと思うんですけど、PFIに今回入札が1件もなかった件について、こういった心配の声がまだ根強くあることは影響していたと考えてらっしゃいますでしょうか。

【市長】

それとこれとは次元が違う話、いきさつが違う話であります。民間の事業者、事業性を考えてここに入るかどうかということを決めますので。

【毎日新聞】

ありがとうございました。

【司会】

NHKさん。

【NHK】

すいません、話題を変えてもう一つお時間ください。去年の公務災害認定の話についてです。前回の会見の翌日に、ご遺族側がこれを裁判で訴えるという提訴の記者会見を開きました。その場で奥さまからのコメントを、おそらく市長の手元に全文は届いてないと思いますので、少し読み上げますと、「夫の死に対して責任がないとのことで、とても納得ができません。一人の命の尊厳に対し

て、このような分かりづらく簡単な答えしかなされなかったことについてとてもさみしく、つらい思いがしました。夫が長期間、静岡市で市民のために誠実に働いてきたことに対して、静岡市が何も評価していないことに対して残念な気持ちがあります。静岡市がもっと真摯な気持ちで対応していただければ私たち家族の気持ちもいづらか晴れたと思いますが、この回答に接し、つらい気持ちが募るばかりです」と。このようにコメントを出されました。私、取材始めたのは公務災害認定の後からでしたけれども、ご遺族も最初から提訴を考えていたわけではなくて、先月の市長の、市長名で出された回答書と市長記者会見も踏まえて年末年始に弁護士さんが、訴状を書き上げたという経緯だったわけですけれども、こういったコメントが出るような対応になったことについて、市長、振り返ってどう思われていますでしょうか。

【市長】

亡くなられた方に対して、心から冥福をお祈り申し上げます。私も市長名でああいう文章を出さざるをえなかったということは、大変つらく切ない思いであります。

【市長】

市としての主張や見解はおっしゃればよいとは思うのですが、私、疑問なのは、市長が日頃、お役所仕事の一掃ということを庁内でしきりに唱えていらっしゃりながら、先月のご回答がご遺族にとって非常につらい思い、実際、私が読んでも、お役所の論理によるお役所の言葉の文書だなどと思いますし、その後の市長会見のコメントもなかなか遺族に寄り添ったお言葉をいただけなかったなど思っていますが、お役所仕事の一掃という言葉と今回の対応と、市長の中では整合性は取れているのでしょうか。

【市長】

全く、私が普段言っている役所の仕事を一掃しようということと、このことの判断とは違います。

【NHK】

もう一つだけ伺いますが、伺い方と伺いますか、普段、総務局は訴訟に発展した場合、その対応のためには多くの時間や労力、そして多額の予算を伴うので可能な限りこれを予防する必要がありますと、庁内でこういった文書も発出しているんですね。今回、訴訟を回避する最善の努力は尽くされたとお考えでしょうか。

【市長】

職員は一生懸命やってくれたと思っています。

【NHK】

ありがとうございます。

【司会】

どうでしょうか。日経さん。

【日本経済新聞】

日経新聞です。すいません、2点ありまして、1点目が清水庁舎の問題なんですけども、先ほど事業者は事業性を見て判断するか、入札するというか、やるか判断するってことだったんですけども、今回の計画は入札者がゼロだったっていうことは、事業性に問題があると市長はお考えなんですかということも1点目です。

【市長】

そうですね。民間企業ですので、その目的とともに公共性を両立させるというのがPFIIの趣旨でありますので、そのことについて、もう一度事業者の皆さんのヒアリング調査をしたいと、サウンディング調査をしたいというのが、そのあたりのところ聞きたいということでもあります。

本当に質問がたくさんあって、参加表明したいから質問するんだよということを言っていました。その時にはお互い防災に強い良い物を造ろうね、というようなやりとりもあったんですね。そういう中で最終的にそういうことになったということも、これからのサウンディング調査に委ねていきたいなと思っています。

【日本経済新聞】

ありがとうございます。あともう1点目が全く別の問題というか、新興津の物流センターが来週の29日に竣工するんですけども、物流の向上性とか、中部横断道との連携もあって、期待とか受け止め、市長はどうお考えでしょうか。

【市長】

とても期待をしております。中部横断自動車道の開通が追い風になっての新興津センターですので、タイミングも良かったなというふうに思っております。さらに新興津に物流機能が集約する一つのきっかけになるのではないかなというふうに思っています。

【日本経済新聞】

ありがとうございます。

【司会】

ありがとうございました。失礼しました。毎日新聞さん。

【毎日新聞】

すいません。全く別の、もし把握されていたらってということをお伺いしたいんですけども、中国で発生している新型コロナウイルスの肺炎についてなんですけれども、市が予定していたイベントとか、研修とか、あるいは市内の小中学校の修学旅行、高校の修学旅行とかで、もし影響があるような事案とか検討しているよっていうところがあれば伺いたいんですけども。

【司会】

私のところに、このことについて、まだ報告は上がっていませんが、何かありますか、政策官。

【政策官】

まだ市全体として対応しようという動きにはなっておりませんが、今、動向を注視しながら必要があれば必要な対応をしていきたいというふうに思っています。以上です。

【毎日新聞】

ありがとうございます。

【司会】

ありがとうございました。以上で本日の定例記者会見終了させていただきます。次回は2月3日、月曜日の午前11時からとなりますので、よろしく願いいたします。本日はありがとうございました。